

夢は6次産業化！
坂田さんのある1日のお仕事

- 6:00 起床。
- 6:15 ~ 6:20 自宅から牧場へ、着替えて仕事開始。
- 6:20 ~ 7:00 朝の給餌。子牛への哺乳。
- 7:00 ~ 8:00 搾乳、ベッドメイク。
- 8:00 ~ 16:00 休憩。(夏場は牧草の収穫作業)
- 16:00 着替えて仕事再開。
- 16:00 ~ 17:00 夕方の給餌。子牛への哺乳。
- 17:00 ~ 18:20 搾乳、ベッドメイク。
- 18:20 帰宅。



◀毎日早朝に行う搾乳▶

Profile

酪農

さかた あやの
坂田 彩野 さん

青森県八戸市出身、21歳。青森県立名久井農業高等学校、青森県営農学校を卒業と同時に(株)サウザンドリーフへ。ゲームが趣味。現在は農場向かいの一軒家に住む。

企業名 株式会社サウザンドリーフ

- 所在地/青森県三沢市
- 事業内容/酪農(乳用牛を飼育し、牛乳・乳製品の原料になる生乳を生産)
- 従業員数/5人
- 飼養頭数/130頭



畜産業で働く! Work Style VOL.01

牛乳をつくる



将来は、自分で人工授精して生まれた牛を
真心込めて育てたい!

仕事の合間にとれる
自由時間がたまらない

牧場での仕事を終えて作業着を脱ぎマスクを外すと、坂田さんはエフボが可愛い今どき女子だ。早朝から給餌や搾乳、牛のベッドメイクを行っていることは想像もつかない。「最初は早起きが大変でした。でも慣れれば何てことはない。この仕事の朝が早いのは、新鮮なミルクを消費者に届けるため必要なことなんです」

サウザンドリーフでは、130頭の乳用牛をフルオートメーションで搾乳する近代的な牛舎と、一頭一頭手をかけて搾乳する昔ながらの

牛舎を所有。そのうち坂田さんは、昔ながらのつなぎ牛舎での作業を担当している。

毎日20頭の乳用牛と10頭の子牛にエサを与え、搾乳、ベッドメイクなどの作業、さらに牛の人工授精まで行う坂田さん。「大変じゃない？」と尋ねると「朝8時から午後4時まで自由時間、こんな仕事、ほかに無いと思いませんか？私は牧場の向かいに住んでいるので、昼寝をしたりゲームを楽しんだり。八戸まで買い物に行くことだってできるんです」という答えが返ってきた。



飼料を給餌しながら牛たちの健康をチェック

体を動かす仕事がしたいと
営農大学で畜産を学ぶ

子どもの頃から動物が好きだった。かつて祖父の家では畑を耕し、犬を飼っていたという。「だけど、私が育ったのはマンション。動物を飼うことができなかったんです」

そして、とにかく体を動かす仕事に就きたいと、母の母校でもある県立名久井農業高校へ進学。数多くの野菜作りを経験したが「何か違う」と感じたという。先生のすすめで営農大学校に入学し、酪農を学んだ。そのときの実習先が、サウザンドリーフだった。

酪農で働く。そして
チーズ、ジェラート…
新たな6次産業にも挑戦!

彼女が牛舎を見回ると、安心した表情を見せる牛たち。

「酪農って、やっぱりおもしろい。牛には胃が4つあったり、(人間)だったら飽きてしまうが毎日決まった時間に、いつもと同じエサを、いつもどおりに食べるのが好きだったり、初乳の大切さなど、何か



ら何まで驚くことばかりです。酪農家によって牛の飼育方法やこだわりの全然違うし、どれだけの牛を買って飼育しても、管理がダメだと牛はポロポロになってしまう。牛は、単純なようで実は奥が深い生き物。それがこの仕事の魅力です」

坂田さんは人工授精師の資格を取得し人工授精にも挑戦しているが、思うように受胎しないことが今の課題という。「難しいですね。でもその分やりがいがある。いつか自分で人工授精して生まれた牛を、大切に育ててみたいです」

そしてここで働く決めたときから抱く、6次産業への夢も忘れていない。「一度モッツアレラチーズを作りました。やっぱり6次産業にも本格的にチャレンジしてみたい。牧場で食べる乳製品って、絶対美味しいと思う。既存のチーズやジェラートではなく、ここでしかできないものを作りたい!」

坂田さんの活動をあたたかく見守るサウザンドリーフのスタッフたち。誰もが彼女の成長を願っている。